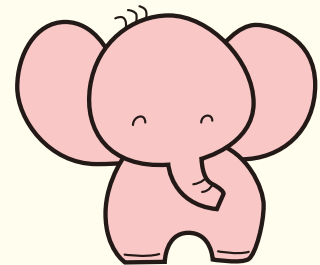


特別企画趣意



がんは1981年から死亡原因の第1位で、我が国では毎年約35万人が死亡しています。

がんの多くは生活習慣に起因して発症します。従って、がんはある程度予防可能です。では生活習慣のどのような点に気をつけたらいいのでしょうか。

また、不幸にしてがんになったらどうするか。幸い、現在がんのすべてが死に至るものではありません。早期に発見されれば大半は治癒が可能です。では、どの段階でどのような検査により発見したらいいのでしょうか。

このような観点から、千葉県では「がん対策条例」及び「がん対策推進5か年計画」を制定し、総合的・体系的にがん対策に取り組んでいます。

そこで今回のフォーラムでは、昨年の「たばこ対策」に引き続き特別企画第二弾として、生活習慣病としてのがんについて考え、がんを早期に発見するための様々な検査方法を知り、行政と住民が一体となってがん対策に取り組むにはどうしたらよいか、などをテーマとして実施することと致しました。

演者紹介

藤澤 武彦氏 1967年千葉大学医学部を卒業、1968年肺癌研究施設外科教室に入局、1974年より77年まで米国カリフォルニア州City of Hope National Medical Centerで腫瘍免疫学の研究、1997年千葉大学医学部肺癌研究施設外科教授、1999年には千葉大学大学院医学研究院胸部外科学教授と一貫して肺癌外科学の診断と治療、教育、研究を行ってきた。2001年千葉大学医学部附属病院長、2003年千葉大学副学長・理事を経て、2004年よりちば県民保健予防財団理事長。2006年千葉大学名誉教授。2003年日本肺癌学会会長、2005年日本臨床細胞学会会長、2006年アジア太平洋気管支協議会理事長。新しい肺がんの早期発見のための気管支内視鏡開発により内視鏡医学振興財団顕彰。がん検診受診率を向上させ、がんの早期発見・早期治療によるがん死亡率低下に努めている。

中川原 章氏 1972年九州大学医学部を卒業、神経芽腫(小児がん)をライフワークとし、43歳で臨床から基礎への転身を決意、米国ワシントン大学で3年間、ペンシルベニア大学で2年間、神経芽腫の分子生物学・ゲノムを研究。1995年8月千葉県がんセンター研究局生化学研究部長へ、同研究局長を経て、2009年4月同センター長、2013年4月から同センター病院長。2002～2006年国際神経芽腫学会理事長、2005年第21回日本小児がん学会会長、2008年第13回国際神経芽腫学会会長、2010年より国際小児がん学会アジア地域会長、2008年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。2013年日本対がん協会賞受賞。

お申し込み方法

はがき、電話、ファックス、Eメールで右記に、連絡先を明記の上、お申込み下さい。

(定員を超えた場合にのみ、ご連絡します。)

なお、席に余裕があれば当日参加も受け付けます。

小象の会事務局

〒260-0808

千葉市中央区星久喜町946番地の7

電話:043-263-1118

F A X:043-265-8148

e-mail:naika@2427.jp